

## 2. 中世の道路状遺構について

宮西遺跡の調査では、調査C区西側のI・J-2グリッドから道路状遺構を検出した。その性格について若干の検討を試みてみたい。

今回の調査によって検出した道路状遺構の長さは南北がわずかに1.50m、幅は4回の改修を行っているため全体で東西14.00m前後であった。道路の方向はN-50°-Eであり、南西から北東方向にのびている。さらに、南側にあたる調査F区からの検出はされていない。検出した道路状遺構は、調査E区とF区の未調査区を抜けるのか、あるいは、調査区中央を東西に走る現道部分に伸びているのか不明である。

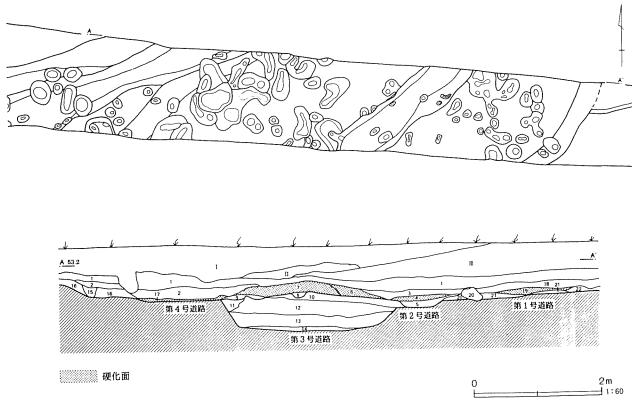
道路状遺構と判断した理由は、第一に、平面観察および断面観察において硬化面を検出したことによる。第二は、硬化面の直下にピット状の凹凸が細かく残されていた点である。第三は、硬化面の下部構造に掘り方を伴い、掘り方内には版築構造とみられる埋土が観察され、掘り込み地業が行われていた。波板状の掘り込みは認められなかった。

道路状遺構は断面観察によって硬化面が4ヶ所検出された。東側から第1号道路状遺構とし順次第2・3・4号道路状遺構とした。

第1号道路状遺構は、最も東寄りに硬化面を検出したもので、硬化面の残存幅1.20m、厚さ6~20cmであった。掘り方規模は東西幅約2.00m、深さ8~20cm程度である。第2号道路状遺構は、硬化面の残存幅0.88m、厚さ8cmであった。掘り方規模は東西幅約0.80m、深さ10cm程度である。第3号道路状遺構は、硬化面は蒲鉾状に中央部分が高くなっていた。残存幅2.70m、厚さ2~13cmであった。掘り方規模は東西幅約2.80m、深さ63cm程度である。第4号道路状遺構は、硬化面の残存幅1.20m、厚さ5cmであった。本道路跡の掘り方は存在せず、地山面直上に硬化面を検出した。

第1~4号道路状遺構は、浅いながらも掘割状の形態をとるものと考えられる。第3号は道幅が広く硬化面も他に比較し最も硬い。また、第3号の硬化面には多量の古代の土器片が混入していた。掘り方も深く、

第61図 宮西遺跡道路状遺構



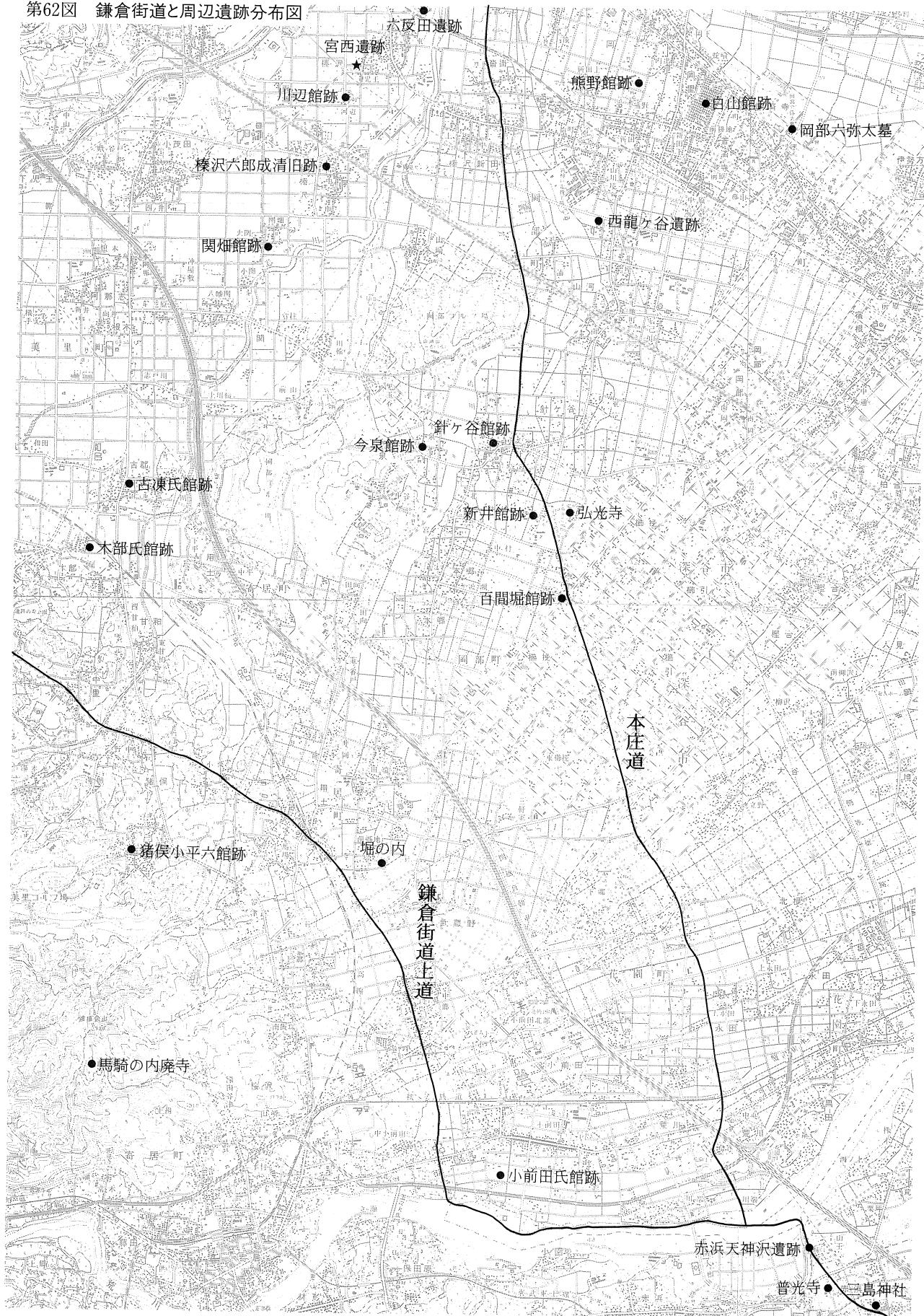
版築状の構造をもっていた。第1・2・3号はほぼ併行しており、いずれも掘り方をもつ点で共通していた。第1号は第2号より、第2号は第3号より古いとみられる。第1号は第2号より硬化の度合いは弱く、遺物もほとんど出土していない。第4号は、掘り方をもたず、第3号に壊されていた。第1~3号は北東から南西方向に比較的まっすぐのびており、第4号は南西方向に湾曲し他の道路遺構とはわずかながら方向が異なる。

いずれの道路状遺構も、硬化面の直下には多くの凹みがみられた、また、第3号は深い箱状の掘り方をもつ点で他の道路状遺構とは異なる構造であった。

道路状遺構からの検出遺物は先に述べたように第3号の硬化面内に土師器・須恵器を伴う、これらの土器群は9世紀第4四半期から10世紀初頭であり、中世の遺物は共伴しなかった。調査区の北側には大寄八幡神社が存在し、本道路跡は、現存する神社境内に伸びていることになる。神社がこの位置にいつ建立されたのか明らかではないが、少なくとも、本道路跡が廃絶した以降と考えられる。このことから、概ね、平安後期から中世段階に造られた道路跡と考えられる。さらに、遺構の構造や周辺の地理的環境をもとに検討を加えてみる。

この時期の道路跡の調査例としては、埼玉県教育委員会が「歴史の道」として中世の道鎌倉街道の現地調査を進め、街道跡と伝えられる掘割状道路遺構の発掘調査が、入間郡毛呂山町市場地区、比企郡嵐山町菅谷

第62図 鎌倉街道と周辺遺跡分布図



館跡西地区、比企郡小川町伊瀬根地区、大里郡寄居町赤浜地区で行われた。毛呂山町市場と小川町伊瀬根では掘割遺構が確認され、底面は平坦で両側に溝をもつ、道路状遺構が確認された。寄居町赤浜では、掘割状遺構と片側のみ溝を検出した。(第63・64図)

その後、寄居町教育委員会によってこの地点を発掘調査が行われた。寄居町赤浜天神沢遺跡(1999 小林)の調査では、掘割状遺構と溝跡を確認した。掘割状遺構は、掘削状に掘削する以外に、波板状の凹凸や地業の痕跡は認められず、道路遺構であった可能性を示すものは部分的に検出された硬化面のみと報告している。また、溝跡は、直線的に約70m検出され道路側溝の可能性が高いと指摘している。さらに、この溝の覆土上面にも硬化面を検出し、側溝としての機能消失後の道路面であるとし、少なくとも二時期の道路遺構が存在したとされた。遺構の時期は13世紀後半から15世紀前半としている。寄居町赤浜の地は鎌倉街道上道が通り、荒川の渡河地点をひかえた交通の要衝である。

埼玉県毛呂山町堂山下遺跡(1991 宮瀧)でも、道路状遺構を検出した。この道路状遺構は鎌倉街道と推定されている。堂山下遺跡の性格は越辺川の渡河地点にあたり14世紀前半から16世紀初頭まで存在した集落と考えられている。集落は鎌倉街道に規制されるかたちで方形の屋敷地が存在し、15世紀以降街道に沿って建物が並ぶと指摘し、堂山下遺跡が「苦林宿」の跡との見解が示されている。

東京都町田市野津上の原遺跡では、5本の道路状遺構を検出した。この内、第1号道路状遺構は概ね南北に走り、幅10~12m、深さ2~4.5mと規模が大きく、断面形態は「V」字状である。底面の掘り方には無数のピット状に連続して掘り込みがみられる。

このほか、群馬県では、今井道上道下遺跡、小島田八日市遺跡、吹屋遺跡、小八木志志戸遺跡、大八木屋敷遺跡、中宿在家遺跡などで道路状遺構が検出された。神奈川県では、中ノ宮北遺跡、いずみの遺跡A地点、草木遺跡などでも道路状遺構が検出されている。

宮西遺跡検出の道路状遺構は、4回の道普請が行わ

れていた。最終の第3号道路状遺構としたものは掘り込み地業をもち、底面にはピット状の連続する掘り込みを検出した。こうした構造は、町田市野津田上の原遺跡で掘割の底面に掘り込みをもつ構造と類似している。しかし、本遺跡検出の遺構は幅2.8mと非常に狭く、両脇の側溝を検出することができなかった。構造上は中世のものと比較類似点も指摘でき掘割状道路遺構としての性格を備えたものと考えられる。

では、宮西遺跡検出の道路跡はどのような性格の道路跡であったのだろうか、まず、いわゆる鎌倉街道上道についてみると、上道は、第62図に示したように寄居町赤浜地区で荒川を渡河し、二方向に分岐する。上道は現在の花園町小前田、中郷、寄居町用土を経て、美里町、児玉町を通り藤岡方面に向かう。もう一方は、花園町を縦断し、深谷市、岡部町を通り、本庄市方面に向かう(便宜的に本庄道と呼称されている)。

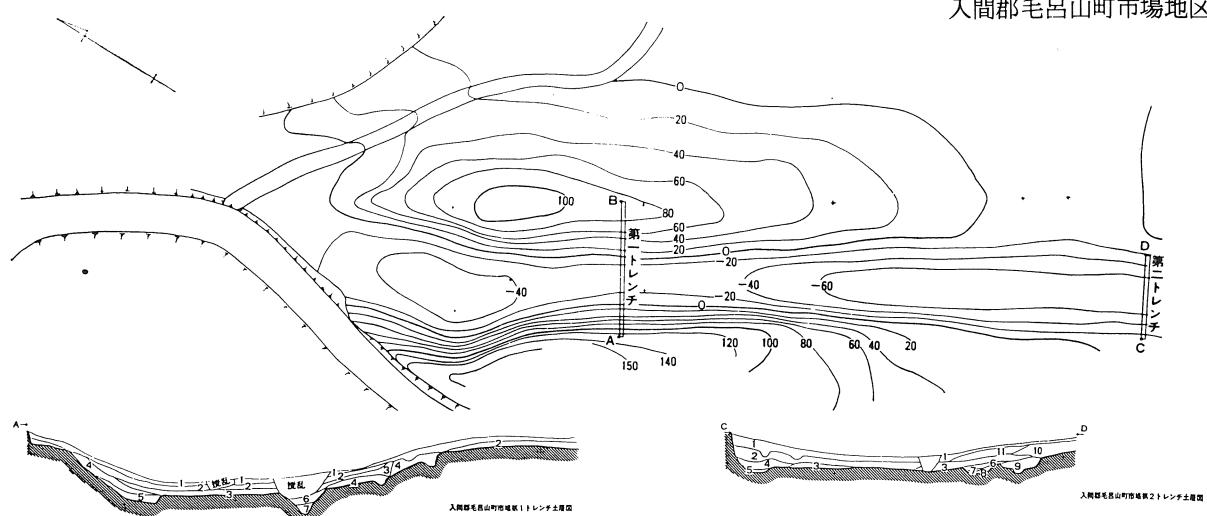
小山川と志戸川に挟まれた後榛沢、榛沢地区は本道からははずれている。このあたりの伝承によれば、寄居町用土方面から山崎山東麓沿いに岡部町今泉に至り、そこから、山崎山を越して後榛沢に抜ける道に鎌倉街道もしくは鎌倉裏街道と呼ばれ、脇街道が存在した可能性がある。後榛沢には榛沢六郎成清墓や安保氏陣屋などの史跡が存在する。街道はさらに、榛沢の集落の南端で榛沢成清の勧請伝説をもつ大寄八幡神社の東側を通り、そこから大きく西にカーブして小山川をわたり、本庄市北堀から西富田を経て上里町七本木辺りに出て藤岡方面に向かったとされる伝承がある。

一方、大正12年に調査された武田良助氏はこの本庄道について、岡部町針ヶ谷から先の伝承路線について西に折れ、今泉に向かい、山崎山から北に残る裏街道に繋がると推定している。

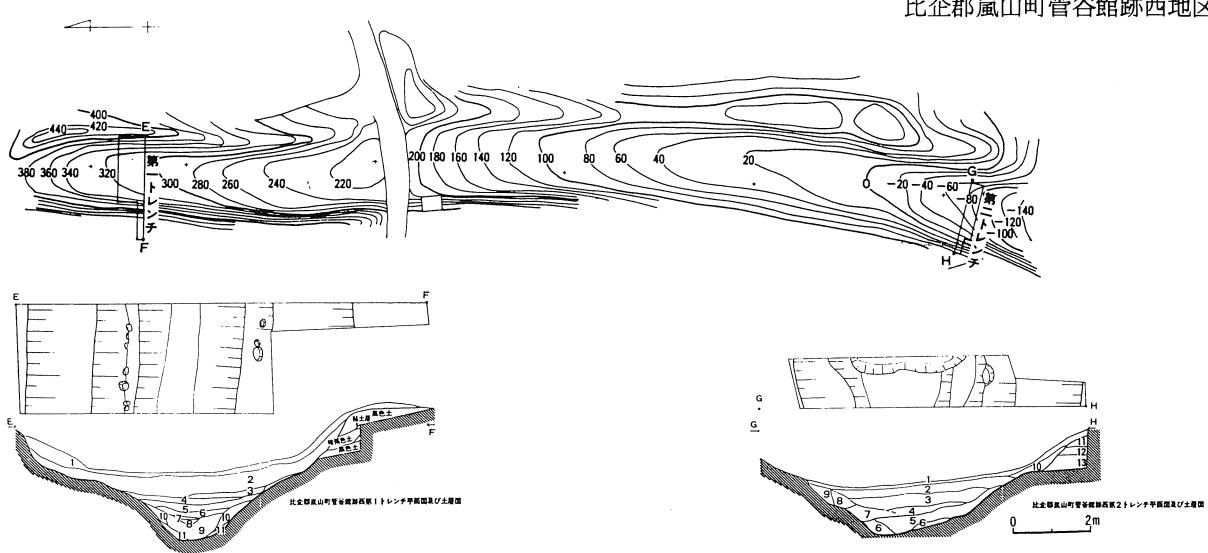
これらの伝承は、鎌倉裏街道と称する道が、岡部町針ヶ谷から西に折れるのか、あるいは寄居町用土から上道と分かれるのか特定はできないが、いずれにせよ、岡部町西部の後榛沢、榛沢地区を通ることにはまちがないであろう。そして、宮西遺跡の道路状遺構は、道路規模が小型であること、本道にみられる本来の直

第63図 鎌倉街道の調査遺跡 I

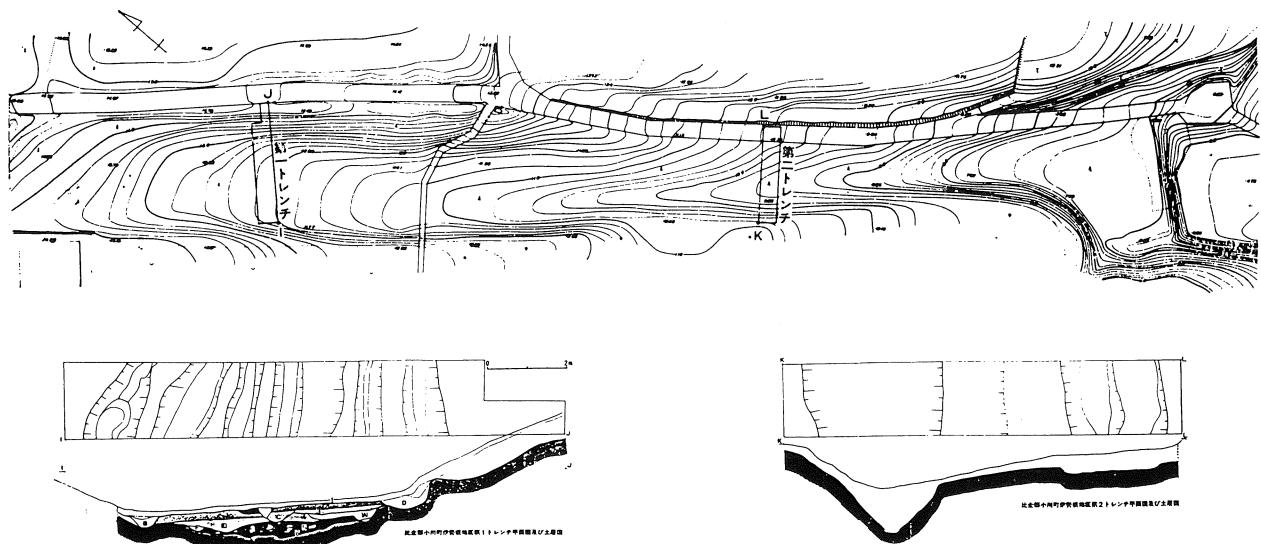
入間郡毛呂山町市場地区



比企郡嵐山町菅谷館跡西地区

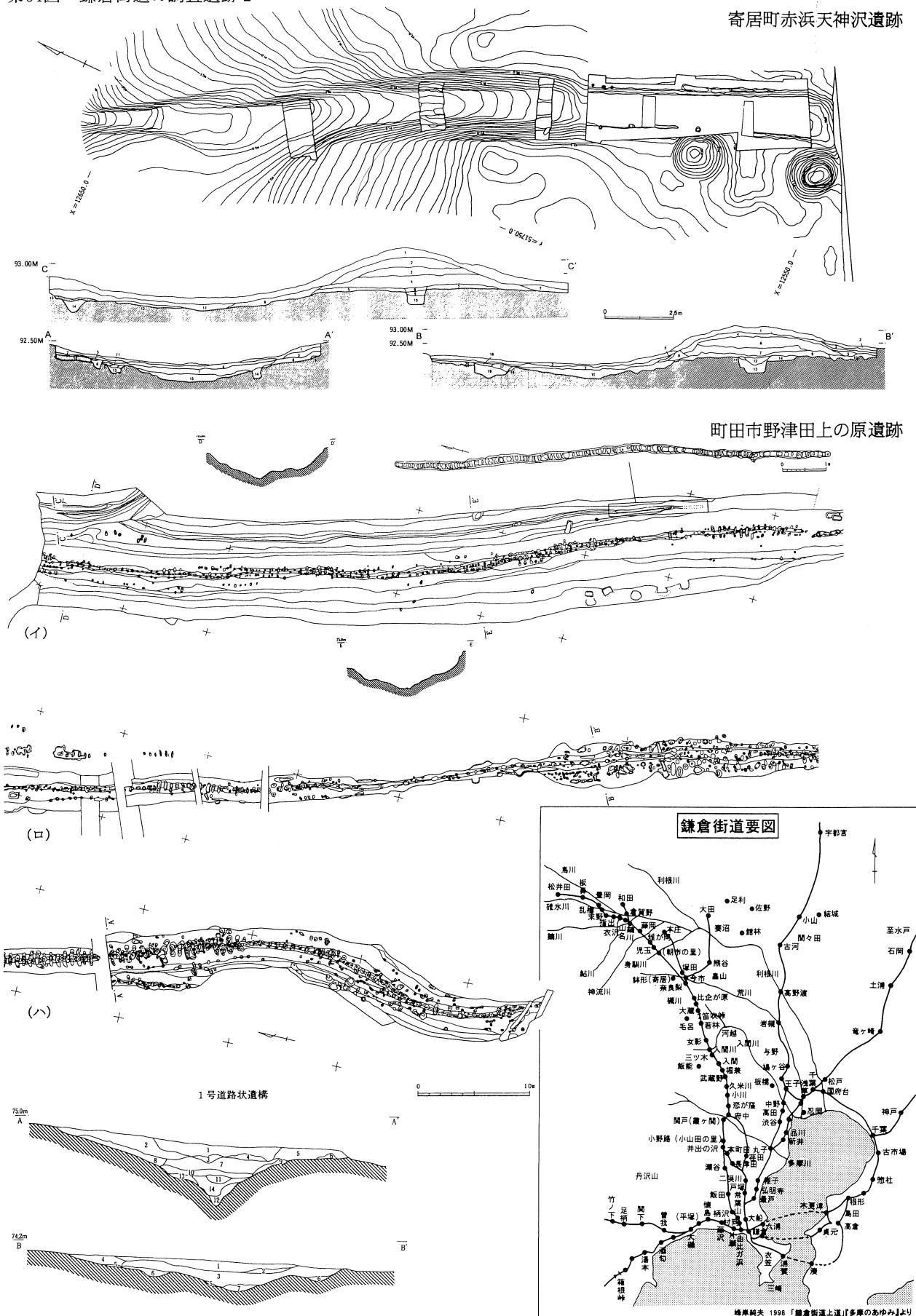


比企郡小川町伊勢根地区

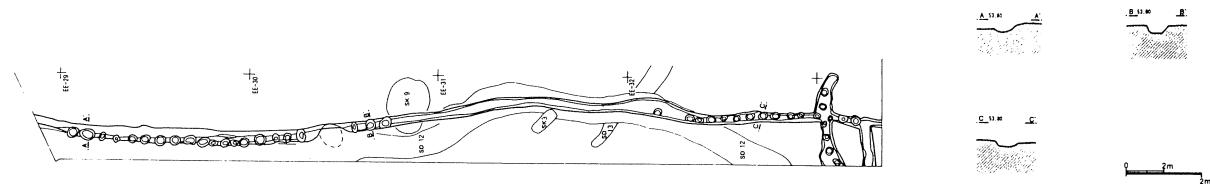


第64図 鎌倉街道の調査遺跡 2

寄居町赤浜天神沢遺跡



第65図 沖田III遺跡検出の道路状遺構



線的計画線の道路とは異なり、地形や条里型地割りに規制される傾向をもっていたと考えられる。宮西遺跡の西側に位置する沖田III遺跡からは、道路状遺構が検出されている(第65図)。検出された長さは22.50mである。覆土には暗灰色の粘質土が硬くしまっており、底面にはピットが連続して検出されている。本調査区の真西にあたり、条里地割の坪線上にあたる。

宮西遺跡から検出された道路状遺構は、小山川と志

戸川に挟まれた後榛沢、榛沢を経て六反田遺跡を通り本庄市五十子城に至る道の存在が示唆されるものの、調査範囲も狭く、調査成果だけでは、系統的な路線を想定することに無理がある。館や集落を結ぶ地域連結の道として機能し、本道に通じる街道の一部である可能性が高いと考えられるが、周辺遺跡の調査成果を待つて検討を重ねる必要があり、今後の課題としたい。

#### 引用・参考文献

- 赤熊浩一 1988『将監塚・古井戸-歴史時代編II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第71集  
 赤熊浩一 1999『末野遺跡II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第207集  
 井上尚明 1986『将監塚・古井戸-古墳・歴史時代編I』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第64集  
 梅沢太久夫 1981『六反田遺跡』岡部町六反田遺跡調査会  
 木戸春夫 1998『沖田I／沖田II／沖田III』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第231集  
 恋河内昭彦 1997『辻堂遺跡I』児玉町文化財報告書第19集  
 小林 高 1999「埼玉県寄居町赤浜天神沢遺跡の掘削状遺構について」『発掘された中世古道』Part 2 中世みちの研究会  
 埼玉県教育委員会 1983『鎌倉街道上道』歴史の道調査報告書第一集 県立歴史資料館  
 坂本和俊 1981『金屋遺跡群』児玉町文化財調査報告書第2集  
 佐藤康二 1998『砂田前遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第198集  
 佐藤忠雄 1979『大寄B遺跡・西浦北遺跡』大里郡岡部町教育委員会  
 篠崎 潔 1991『皂樹原・檜下遺跡II』皂樹原・檜下遺跡調査会  
 鈴木徳雄 1984「古代児玉郡における土地利用と村落の変貌」『阿知越遺跡II』児玉町文化財報告書第4集  
 鈴木徳雄 1991「古代児玉郡における集落設営の計画性」『辻ノ内・中下田・塚畠・児玉条里遺跡』児玉町文化財報告書第15集  
 鈴木徳雄 1997「古代児玉郡の灌漑と地域圈-地域社会における水利権の伝統-」『金佐奈C・児玉条里遺跡上田地区』児玉町文化財報告書第25集  
 鈴木徳雄 1997「古代北武藏の土地利用と集落」『日本歴史』第592 日本歴史学会  
 田中広明・末木啓介 1997『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第190集  
 中世みちの研究会 1999『発掘された中世古道』Part 2  
 富田和夫・赤熊浩一 1985『立野南・八幡太神南・熊野太神南・今井遺跡群・一丁田・川越田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第46集  
 中村倉司 1999『岡部条里／戸森前』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第217集  
 峰岸純夫 1998『鎌倉街道上道』『多摩のあゆみ』第92号財團法人ましん地域文化財団  
 宮瀧交二 1991『堂山下遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第99集  
 村上泰司 1996「古代集落復元への一視点-北武藏における堅穴式住居の分析を中心として-」『土曜考古』第20号土曜考古学研究会